



pic.15 バダ谷にて F 10号 2016

チベットのニエンチェンタンラ西山群 ナツ村の仮ベースキャンプからバダ谷を遡る。氷河湖跡を過ぎると見事なU字谷となり、赤くなった草紅葉の上に氷河が運んできた迷子岩が点在する、まるで庭園のような美しい場所となる。谷の奥には氷河を頂いたバダリV峰が望める。



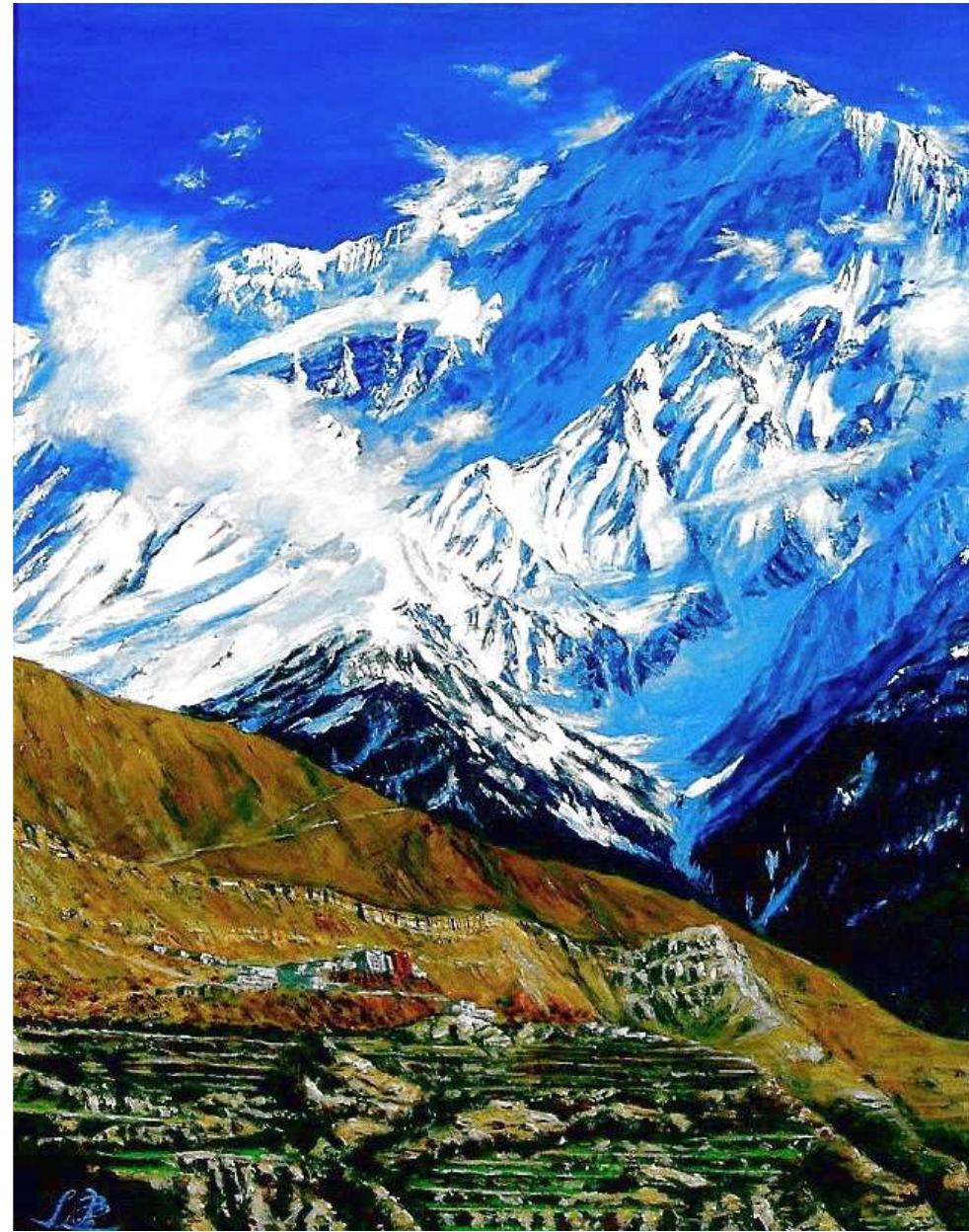
pic.16 ゴラパニ峠からのダウラギリ峰夕照 P 20号 2006

ポカラから2日のトレッキングでゴラパニに登りついた。峠の反対側のダウラギリが出迎えてくる。カリガンドキ川の深い谷を隔てて、王者のような巨峰が夕陽に映えている。壮大な風景の中、荷物を背負った一人の女性が家路を急ぐ。

*Nepal Himalaya*

pic.17 カリガンダキ川から仰ぐ  
ヒマラヤ大障壁  
F 20号 2004

カリガンダキ川沿いに上流へ向かうとヒマラヤ山脈の最も高い部分（大障壁）を貫く大ゴルジュ帶となる。この大障壁を境に気候、植生、人種、文化さえも劇的に変化する。ゴルジュを北側に抜けたジョムソム付近から振り返ると大障壁を形成するニルギリ北峰が遙か高く聳える。



MeiliXueShan

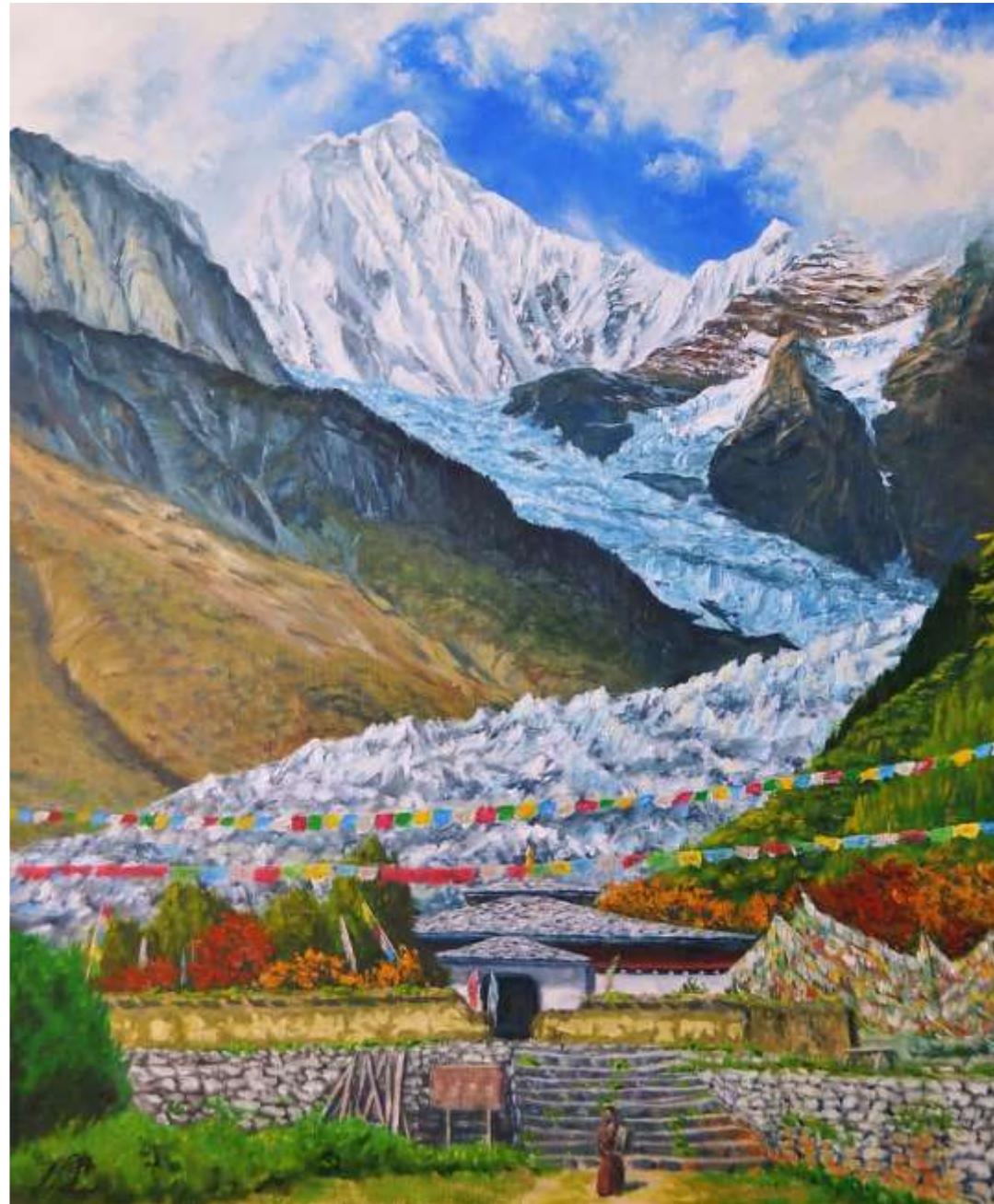


pic.18 チベットの神山に祈る M 20号 2019

メコン川の深く浸食された谷を隔てて対岸に聳える梅里雪山の主峰カワカブ。チベットの人々が神の山として崇める山。早朝に陽の光を受けて燃えるように輝くときは誠に神々しい。ラマ教のチョルテン（仏塔）の傍らで静かに祈る人ひとり。

pic.19 明永冰河 太子廟にて  
F 20号 2019

明永村から谷を登っていくと、やがて樹林が途切れタルチョがたなびく太子廟の前に出る。廟の背後に明永冰河の末端が迫り、さらにその上にカワカブの頂上を仰ぐことができる。まるでカワカブの懷に抱かれるようなところである。



*MeiliXueShan*



pic.20 秀麗 F 4号 2020

飛来寺を去る日に、それまで雲に覆われて見えなかったメツモ峰が姿を現した。現地の人たちはカワカブを男神と見立てて、その妃の峰とされている。凛として鋭く天を突くように立っている姿は気品さえ感じさせる素晴らしい山である。



pic. 21 草原の果てのジャラリ P 10 号 2020

初登頂から 30 年を経て訪れた我々の前にジャラリが姿を現した。マニカングの街  
を出ると氷河を懸けた巨大な岩山が突如草原から湧き出たように鎮座していた。